■読みに困難のある子どもたちへの実践事例

読みが苦手な児童(通級指導教室)の 意欲的な学びにつなげる

大阪府富田林市立大伴小学校 磯口多恵子

通級指導教室へ通う子どもたち の実態

今年度から、通級指導教室が、設置 されました。

1年生から6年生までの子どもたちが通っています。

読むことに自信がない、語彙が少ない、文字が二重に見える、ゆがんで見える、形をとることができない、書く時に線が一本多くなったり少なくなったりする、学年相応の教科書やノートの字の大きさではつらい、文字だけではしんどい、じっと見つめることが苦手、教室でじっと座っていることが苦手、集中することが苦手など、宿題の本読み、図書の時間の本読みが苦手です。

一人ひとり、読みに対して苦手意識 をもっている子どもが多いです。

「わいわい文庫」の利点

カラー一覧表の本の表紙の絵から、 本をさがすことができます。

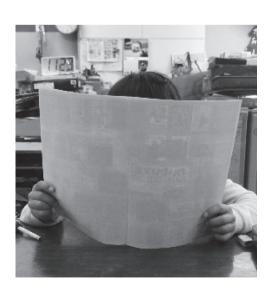
文字を読むのが苦手でも、絵からさ がすことができるのです。 ハイライトの色、文章の文字の色、 背景色をたくさんの色の中から自分に 合った見やすい色に変えることができ ます。

本を読むスピードも変えることがで きます。

何度でも繰り返し聴くことができま す。

自分だけの、自分に合った色、速さで、見て聴くことができ安心感がうまれます。

パソコン操作もやさしいです。











「わいわい文庫」を使った学習 のねらい

自分で読みたい本を見つけることができる。

はじめから終わりまで、見て聴くこ とができる。

使用した作品

2019年度作品

『どろぼうがっこう』 『恐竜研究室』 『へんしんマンザイ』

『ブラインドサッカー』『ノンタンもぐ もぐもぐ』『人工衛星ガイドブック』

実際の様子

①事前提示の仕方

カラー一覧表を用意すると、子ども から「これ」と言って、さがすことが できました。

②授業の様子

一対一の個別指導の時間、対面ではなく、パソコン画面を二人で見ながら、操作しました。みんな離席もせずに、お話をじっくり聴くことができました。

③事後評価

自分の見たい本を、カラー一覧表から探し出すことができ、「これ、教室で先生が読んでくれたよ。」とか「次はこれにしとこう。予約ね。」と、次の時間の分も決め、たくさんの中から、自分に合ったものを見つけることがで

きました。「こっちは高学年の人のやね。」「○○分もかかるわ、すごい。」とか「これだったら、今から読めるわ」と時間配分も考えることができました。「これ、読んだことがある」「これいいな」「○分あるからこれは無理。」「これ○分やからいける?」と自分から絵を探し、最後に題名を見つけていました。一人ひとりみんなちがって、自分の読みたい本を見つけることができました。

離席もせずに、とても集中して、見て聴くことができました。一緒に聴くことで子どもたちの目の輝きを見ることもできました。

指導を通して

 が増えていくように、広げていきたいと思っています。



